

長野県立歴史館中長期目標(2020-2029年)に基づく令和4年度事業に係る実施状況・自己評価 及び 令和5年度事業に係る実施計画及び目標設定

評価の区分
A 目標を上回る成果をあげた
B ほぼ目標は達成した
C 目標には及ばなかった
D 目標には遠く及ばなかった

【基本目標1】長野県民の歴史遺産を未来に継承するための取組を進めます

[取組1-1] 考古資料・歴史的価値を有する文書・その他歴史資料等を収集・整理・保存し、調査研究を行います

基本目標に対する取組		令和4年度 主な事業・取組 ／ 目標値	令和4年度 達成値	自己評価	R4反省、R5改善点・取組方針等	令和5年度 主な事業・取組 ／ 目標値	《参考》利用者の声（R4アンケート等）	
史資料の収集・整理	○長野県の歴史を明らかにするために必要な史資料を収集・整理します。 ○当館が公文書館の機能を有し、公文書管理条例が制定されることから、歴史公文書等の収集を適切に行うよう取り組みを強化します。	○特定歴史公文書、県報、行政資料 ・特定歴史公文書の受け入れ ・新規収蔵文書の整理・登録・配架（2000点） ・県報、行政資料の公開（年間約300冊） ・公開・非公開判定会議の開催、金属除去などの実施 ※R4年度の長野県公文書等の管理に関する条例施行に伴い、会計年度任用職員が3名配置されたが、規定の期間内の整理完了・公開を達成するため、更に体制強化を検討	・特定歴史公文書の受け入れ 1,818点、行政資料230冊、県報124件、近現代資料4件収集 ・整理した特定歴史公文書1,739冊、行政資料267冊 ・県報8件、行政資料356冊を公開 ・公開・非公開判定会議は該当案件なし	a	A	・R5から会計年度任用職員1名が増員され、特定歴史公文書の整理作業の促進を図る。	○文献史料の収集・整理 ・特定歴史公文書の受け入れ ・特定歴史公文書、県報、行政資料、新規収蔵文書の整理、登録、配架（2,400点） ・県報、行政資料の公開（年間約300冊）	・戦時中の資料が倉庫から出てきたが県立歴史館に預かってもらい安心した（寄贈者）
		○現代史料 ・未整理近現代史料・県報・県史写真版資料等の整理（500点）	・未整理現代史料等の整理 日本測定器株式会社疎開資料など14件952点の現代史料整理、保存、公開 長野県史写真フィルム（35mm）の洗浄、複製製作（継続事業）諏訪486本 ・戦後史聞き取り調査3人	a		・計画的に聞き取り調査を実施する。	○現代史料 未整理近現代史料・県報・県史写真版資料等の整理（500点） 戦後史の聞き取りの実施（3人）	・戦後史の聞き取りを着実に進めてもらいたい（歴史研究者）
		○古文書 ・新規史料の収集 ・未整理史料の整理を進める。 ・年度内10,000点	・新規史料の収集 曽根原家文書など20件8,765点 ・未整理史料の整理 23,487点（ボランティアによる整理含む）	a			○古文書 新規史料の収集 未整理史料の整理を進める（年度内15,000点）	・市場に出ている自分の市の近世地方文書を県に購入してもらい、結果的に散逸防止できたことはありがたかった（文化財担当者） ・整理作業に毎週携われて読む力も随分とつき楽しい（ボランティア）
		○所蔵考古資料の整理と収納 ・発掘調査報告書別、寄贈者別に収蔵品（遺物、記録図面、写真所見等）の棚卸しを行い、適切な閲覧（調査研究）ができるよう再整理し、再収納する。年度内1,000箱） ・写真資料等の保存（フィルムのデジタルデータ化） 報告書掲載写真フィルムのデジタル化 中判6×7フィルム 2,000枚 ※デジタル化業務の作業効率向上・スピードアップを図るため、業務体制強化（会計年度任用職員の増員）を検討	・所蔵資料の棚卸と箱ラベル貼替え 1342箱 ・写真資料の保存（デジタル化） 6×7フィルム1,900枚、35mmポジ800枚	a		・写真資料のデジタル化は、R5から国庫補助事業を活用し、会計年度任用職員1名増員により、スピードアップを図る（業者委託→直営へ切替え）。	○考古資料の収集・整理 ・所蔵考古資料の整理と収納 発掘調査報告書別、寄贈者別に所蔵品（遺物、記録図面、写真所見等）の棚卸しを行い、適切な閲覧（調査研究）ができるよう再整理し、再収納する。（年度内1,000箱） ・県宝追加指定・重要文化財指定に向けた屋代遺跡群出土木製品の整理 ○写真資料等の保存（R7年度終了予定） 報告書掲載写真フィルムのデジタル化 中判6×7フィルム 2,000枚、35mmフィルム1,000枚	
史資料の保存	収集・整理した史資料に対し、必要に応じて適切な保存処理・修復を行い、適切な環境で保存します。 また史資料の滅失、県外への流出・散逸を防ぐため必要な保存措置を講じ、重要な流出資料については購入するなど、特別の配慮を払います。	○考古資料の保存処理 ・所蔵木製品の保存処理 PEG及びトレハロースを使用した保存処理（濃度アップ、樹脂塗布等処理）159点 ・所蔵金属器、骨角製品等の保存処理 所蔵金属器の劣化状況に応じた処理・再処理を推進 ・所蔵考古資料及び県内文化財の保存処理に係る課題抽出と展望をまとめ、R5以降の保存処理計画の指針作成 ・長野県埋蔵文化財センターからの応急的保存処理への依頼に対応 ※滞っている木製品保存処理の作業効率向上・スピードアップを図るため、業務体制強化（会計年度任用職員の増員）を検討	・所蔵木製品の保存処理 PEG処理・トレハロース処理 計159点 ・金属器保存処理 53点（クリーニング等18点、脱塩処理30点、仕上げ5点） ・所蔵考古資料及び県内文化財の保存処理に係る課題抽出と計画の指針（基本的な考え方）作成を行い長期的な見通しをたてた。 ・長野県埋蔵文化財センターの応急的保存処理、市町村の保存処理に対する技術指導・支援 2件	b	B	・引き続き国庫補助事業を活用するとともに、課業務等の事業費配分の創意工夫により、R5から会計年度任用職員を2名増員し、年間処理点数の大幅引き上げを目指す。	○考古資料の保存処理 ・所蔵木製品の保存処理（R21年度終了とする処理計画を策定） PEG及びトレハロースを使用した保存処理（濃度アップ、樹脂塗布等処理）（324点） ・所蔵金属器、骨角製品等の保存処理 収蔵金属器の劣化状況に応じた処理・再処理を推進（55点） ・長野県埋蔵文化財センターの応急的保存処理、市町村の保存処理に対する技術指導・支援	
史資料の調査研究	○長野県の歴史を明らかにするために、収集・整理した史資料に関する調査研究を行い、史資料を県民のかけがえない文化財・歴史遺産として位置づけ、その歴史的価値を明らかにします。 ○展示や普及活動を円滑に進めるためにも、館蔵史資料以外の県内外文化財の調査研究を行います。 ○後世に伝えるために史資料の情報収集、所在や現状把握に努めます。	○考古資料の科学分析 ・所蔵資料の蛍光X線分析、X線透過観察の科学分析を行い、研究成果を蓄積。市町村からの分析依頼に対し、実務調整を行い、可能な範囲で対応	・市町村からの金属製品のX線透過観察・赤外線観察の依頼に関しては、調整の上で100%対応	b	B		○考古資料の科学分析 ・所蔵資料の蛍光X線分析・X線透過観察等の科学分析を行い、研究成果を蓄積。市町村からの分析依頼に対し可能な範囲で対応	・東京、奈良など他県に持っていない地元で主な科学分析ができるので助かっている。（市町村担当者）
		○R5年度企画展の資料調査 ・企画展「主張する古墳～新たなシナノの古墳時代像～」 「信州やきもの紀行～江戸から明治へ～」 「和田英～糸づくりに懸けた明治の女性～」 (仮称)の実施設計の作成 ・上記企画展の資料調査の実施	R5企画展主張する古墳～新たなシナノの古墳時代像～」 「信州やきもの紀行～江戸から明治へ～」 「和田英～糸づくりに懸けた明治の女性～」 (仮称)の実施設計の作成	b		・より魅力的な企画展を目指す	○R6年度企画展の資料調査 ・企画展「朝日将軍義仲」「川中島合戦」「佐久間象山」（仮称）の実施設計の作成 ・上記企画展の資料調査の実施 ・収集史料を位置づけ公開する企画展の立案	・寄贈した資料を整理してもらい、大きな企画展示や図録にしてみようやく自分の荷が下りた気がする（寄贈者）
		○職員の調査研究の推進 ・学芸研究会等における調査研究発表の実施 ・研究紀要等への研究論文の掲載 10論文以上 ・館内における「時代別研究会」の充実各時代とも年間6回以上の開催	・学芸研究会9回実施、15人発表 ・研究紀要第29号発刊、8論文掲載 ・「時代別研究会」をすべての時代で6回以上開催	b			○職員の調査研究の推進 ・学芸研究会等における調査研究発表の実施 ・研究雑誌、研究紀要等への研究論文の掲載 10論文以上 ・館内における「時代別研究会」の充実各時代とも年間6回以上の開催	

[取組1-2] 史資料の保護(保存・活用)に取り組むとともに、保護思想を啓発します

基本目標に対する取組		令和4年度 主な事業・取組 ／ 目標値		令和4年度 達成値		自己評価		R4反省、R5改善点・取組方針等	令和5年度 主な事業・取組 ／ 目標値		利用者の声	
（文化財の保護・活用）	○市町村、県、国の指定文化財等について、県立の文化財公開機関としての役割を果たします。	○県立の文化財公開機関として、企画展等において指定文化財を展示・公開 ・市町村、県、国の指定文化財の展示機会を設ける。 ・当館所蔵文化財借用依頼への対応 ・史資料の保存に関する調査研究を進めその成果を公開	・2022年所蔵品展「至宝の名品ー学芸員のイチオシ 考古資料編ー」で、重要文化財2件[斧形石器・砥石（信濃町日向林B遺跡）、緑釉陶器、鏡（塩尻市吉田川西遺跡）]、県宝3件[大型接合資料と石槍（佐久市下茂内遺跡）、動物付装飾付釣手土器(富士見町札沢遺跡)、木造六角法幢(千曲市社宮司遺跡)]を公開	b	B			○県立の文化財公開機関として、企画展等において指定文化財を展示・公開 ・市町村、県、国の指定文化財の展示機会を設ける ・当館所蔵文化財借用依頼への対応 ・史資料の保存に関する調査研究を進めその成果を公開 ・災害による被災文化財レスキューに対応 ・県や市町村の文化財保護審議議会では歴史館職員の知見を活かし、的確な助言を行う	・重要文化財、県宝が予想以上の多さに感動です。 ・六角宝幢や丸木舟の復元（複製）は大変な作業ですね。 ・教科書で見る文字や写真よりも復元された資料を見ることでより新鮮で良かった。 ・レプリカなどの再現度がすごかった。			
史料保存修に会関する実施講習会、	○県立博物館・文書館・文化財保存修復機関・研究機関として市町村・県内博物館等への支援、助言を行います。	○文献史料保存活用講習会の開催 ・開催3回 参加者延べ60人	・3回開催 参加者数103人 満足度 100%	a	B		○文献史料保存活用講習会の開催 ・3回開催 参加者延べ60人	・屏風下張り文書の取り出しが具体的にわかってよかった（受講者） ・行政文書の評価選別の仕方や行政利用という観点がわかり有意義だった（受講者）				
		○考古資料保存技術講習会の開催 ・開催2回程度	・1回開催（千曲市）参加者数19人	b			○考古資料保存技術講習会の開催 ・2回程度開催	・保存処理の工程を実際に体験できたことで技術が身についた。（受講者）				
		○防災・災害の対応 ・事例研究や他県の体制・対応を参考に研究を推進	・大雨や台風の後など、県博物館協議会や県史料保存連絡協議会等のネットワークを活用して被害の有無等を情報収集	b			○防災・災害の対応 ・事例研究や他県の体制・対応を参考に研究を推進	・史料保存活用連絡協議会において災害対策費を計上した。				
考古資料に関する市町村への支援	○考古資料の保護、発掘調査・研究、研修などに関した支援を行います。	○史資料の保存等に関する市町村への協力・支援 ・依頼事項の80%以上	・災害被災資料の保存についての問い合わせに対応	b	B		○資料の保存等に関する市町村への協力・支援 ・依頼事項の80%以上	・具体的な被災事例はないが、史料保存活用連絡協議会および歴史館資料調査委員会での話題として共有できてよかった（理事および委員談）				
		○考古資料の保護等に関わる市町村への協力・支援 ・考古資料の保護に関して学術面から支援（依頼に応じて対応） ・考古資料に関わる研究や研修（講演等含む）に対し協力・支援（依頼に応じて対応）	・考古専門学芸員不在市町村からの遺物保存等に関する相談に対応・支援（100%）	b			○考古資料の保護等に関わる市町村への協力・支援 ・遺跡や遺物の保護、発掘調査等を学術面から支援（依頼に応じて対応） ・考古資料（遺跡・遺物）に関わる研究や研修（講演等含む）に対し協力・支援（依頼に応じて対応）	・県内では他に相談できる場所がないため心強い。（市町村担当者）				
市活公町用文村に書等関等への保支県存援・・	○県、市町村等へ公文書等の保存・活用について支援します。	○県、市町村等へ公文書等の保存・活用についての支援 ・依頼事項の90%以上	・県内市町村からの公文書等の保存・活用についての問い合わせに対応（100%）	b	B	・実際の整理方法などの啓発の必要性	○県、市町村等へ公文書等の保存・活用について支援・啓発を行う	・物価高騰の中で古文書整理袋（中性紙）の作成などの相談を受けてもらいありがたかった（公文書館担当者） ・古文書の整理方法について教えてほしい（講習参加者）				

【基本目標２】 未来を映す歴史知識の泉、歴史学習の拠点としての役割を果たします

[取組2-1] 長野県の歴史を明らかにし、その成果を普及します

基本目標に対する取組		令和４年度 主な事業・取組 ／ 目標値		令和４年度 達成値		自己評価		R4反省、R5改善点・取組方針等	令和５年度 主な事業・取組 ／ 目標値		利用者の声	
常設展示の充実	○定期的な展示替えや新展示をするなど展示の改善を図り、総合調査の成果を生かした総合展示を実現します。	○常設展示の工夫 ・満足度（大いに満足、満足の合計）80%以上 ・関係機関との連携 市町村教委、県内外博物館、信州大等	・観覧者数 25,689人 満足度 96% (R3 25,831人 前年比99.5% R2 21,764人) ・関係機関との連携 千曲市教育委員会、長野市教育委員会からの資料借用、十日町市博物館と資料の相互貸借を行った。また、信州大学との連携協定により、常設展示解説動画を作成した。 ・真空管ラジオの実演を土日祝日に年間を通じて行った。		a	B		・新型コロナウイルスの広がりを注視しながら、手指消毒のボトルを設置し、体験型展示を順次再開している。R5は竪穴住居への入室を検討する ・昭和の家電コーナーの充実と公開に可能な限り努める。	○常設展示の工夫 ・満足度 80%以上 ・企画展と関連した部分展示を計画して相乗効果を図る ・関係機関(市町村教委、県内外博物館、信州大学等)との連携 ・新型コロナウイルスの動向を見ながら、体験型展示を再開する	・動くナウマンゾウが迫力があり感動した。 ・教科書でみる文字や写真よりも復元された建物など、大きさを身近に感じられ昔の生活がよく分かった。 ・ボランティア解説が丁寧で長野県のことがよく分かった。 ・竪穴住居に入りたかった。 ・昭和の家電コーナーを作って欲しい。 ・触れる展示がほしい。		
		○展示情報の発信 ・YoutubeやSNSを活用し、新展示紹介や展示解説動画などを前年度以上に発信する。 ・撮影・収録の手法・技術や解説内容・話術などのスキルアップを図る。	・信州大学との連携事業として常設展示室の解説動画の撮影を行い、映像教材を作成 ・Twitterで情報発信（常設展示に関する内容20回）		b				○展示情報の発信 ・YoutubeやSNSを活用し、展示資料の紹介や展示解説動画などの作成に取り組む	・YouTubeで予習して来たのでわかりやすかった。 ・ツイートから次のきっかけになるような参考意見をもらうことがある。 ・古文書初心者向けの動画を次々にアップしてもらって勉強になった（受講生）		
企画展示の充実	○県民のニーズに沿った企画展を実施するとともに、企画展示の充実を進めます。 ○理想的な環境で文化財を公開できるように環境整備を行い、企画展示室のリニューアルを実現します。	○企画展示の充実 ・満足度80%以上	・総観覧者数 19,053人満足度 88.57% (R3 22,162人前年度比86.0% R2 16,127人)		a	A		○企画展示の充実 ・満足度（来場者アンケート：大いに満足、満足）80%以上				
		・所蔵品展「至宝の名品 考古資料編」（3/19～6/12）	・所蔵品展「至宝の名品 考古資料編」（3/19～6/12、年度内4/1～6/12） 49日 4,359人 満足度82.95%		a		・キャプションの文字の大きさについては、改善に努める ・秋季企画展「諏訪と武田氏」で発掘場所の表記については、遺跡名と現地名の併記に努めます ・資料を様々な角度から見たいとの要望に対して、四面ケース等を工夫し多方向から鑑賞できる展示を目指します	・所蔵品展「至宝の名品 学芸員のイチオシ古文書編」（3/18～5/28）	・県内の発掘品を幅広く見ることができ、長野県のおもしろさを再確認した。 ・人骨が出土した状態で展示してあり、びっくりした。 ・説明がしっかりあってわかりやすかった。 ・キャプションの文字を大きくしてほしい。 ・発掘場所を現在の地名で表示してほしい。 ・石器を様々な角度から見たい。			
		・夏季企画展「山伏 佐久の修験 大井法華堂の世界」（7/9～8/21）	・夏季企画展「山伏 佐久の修験 大井法華堂の世界」（7/9～8/21） 37日 4,078人 満足度94.7%		a		・県外の方にもわかりやすい地名地図を作ります。	・夏季企画展「主張する古墳～新たなシナノの古墳時代像～」(7/1～8/20)	・寄贈された資料を中心に修験道の歴史を説明してありわかりやすかった（観覧者） ・高埜先生、徳永先生の講演がわかりやすく、展示の理解を深めることができた（受講生） ・佐久市と共催した修験展では、連携講座および現地見学会を開催できて、市民の関心が高まった（文化財担当者）。 ・重要な資料を全国から集められ山伏を考えるうえで好企画だった。 ・大井法華堂が廃止されたあと、貴重な史料を守り続けた佐久の人々に敬意を抱いた。 ・書状の内容が現代のメール様にして分かりやすかった。 ・場所の説明は県外の人ができるように地図にしてほしい（県外来館者）			
		・秋季企画展「諏訪と武田氏」（10/8～11/20）	・秋季企画展「諏訪と武田氏」（10/8～11/20） 37日 5,287人 満足度90.7		a		・キャプションの文字の大きさについて改善する。 ・わかりやすい展示を目指し、解説パネルの数について検討する。	・秋季企画展「信州やきもの紀行～江戸から明治へ～」(10/7～11/26)	・信玄が使っていた刀や兜や県外にある風林火山などの旗が本物が見れて感動した ・諏訪と武田氏の間接を知るいい機会になり、時系列で理解できた ・文字を大きくしてほしい。			
		・冬季企画展「高遠藩の遺産 最後の藩主が残したもの」（1/14～2/26）	・冬季企画展「高遠藩の遺産 最後の藩主が残したもの」（1/14～2/26）37日 2,249人 満足度86.3%		a		・展示が始まった後もマスコミの取材をアピールしていく。	・冬季企画展「和田英～糸づくりに懸けた明治の女性」（1/13～2/25）	・藩主内藤頼直が貴重な歴史の資料を丁寧に後世に残したこと、こうやって企画されたことが大切だと感じた。 ・高遠藩はよき伝統を残された。 ・ぜひ伊那市でも展示してほしい。			
		・所蔵品展「至宝の名品 古文書編」（3/18～6/11）	・所蔵品展「至宝の名品 古文書編」（3/18～5/28、年度内3/18～3/31） 12日781人 満足度91.7%		a		・文書の説明については、スペースの範囲内で可能な限りの情報を提供します	・所蔵品展「歴史資料編」（3/23～）	・一枚の紙の史料からも昔の人の生活や政治のありさまが伝わってくるように見えた。 ・手形の形式や花押などその時の息遣いまで感じられた。 ・文書の説明がもっとほしい。			

		・YoutubeやSNSにより、解説動画・情報等を発信する。	・YouTubeにおける解説動画公開数 所蔵品展16本、夏季企画展10本、秋季企画展3本 ・Twitterにおける情報発信回数 所蔵品展33回、夏季企画展33回、秋季企画展19回、冬季企画展18回、所蔵品展2回	b			・YouTubeやSNSにより、解説動画・情報等を発信するとともに、発信内容の品質向上に努める。	
		○ミニ展示の開催 ・企画展示室横の小展示室を、各企画展の一部として使用しない際には、館蔵品を使った企画展関連展示や、新収蔵品の紹介展示、パネル展示などで活用する。	・夏季企画展：西川かおり原画展「そこに根井（ねのい）氏がいたー木曾義仲・義高と仲間たちー」を展示 ・秋季企画展：宮坂武男氏、山城の水彩画 ・冬季企画展：「高遠の桜」の上映、池上典氏の高遠城再現図、風景図を展示 ・県埋蔵文化財センター速報展（所蔵品展と同時開催） 「掘るしん2022」（年度内4/1～6/12） 49日 4,359人 「掘るしん2023」（年度内3/18～3/31） 12日 781人	b		・映像資料を視聴するため、小展示室の利用を検討する。	○ミニ展示の開催 ・小展示室を、館蔵品を使った企画展関連展示や、新収蔵品の紹介展示、パネル展示などで活用 ○小展示室を映像視聴用に利用することも考えていく	
総合協調力門 査に分のよ 実るの施	○考古資料、文献史料、総合情報専門性を総合して館外研究者等の協力による長野県の歴史に関する総合的研究を行います	○学芸部の総合研究の成果を企画展に活かす ・総合研究を結集した所蔵品展の実施	・総合研究の成果として所蔵品展「至宝の名品ー考古資料編」を実施	b	B		○総合研究の成果を企画展時に活かす ・総合研究を結集した所蔵品展の実施	
県内外の と協力した 調査研究の 実施 研究者等	○県内外の地方史研究団体、郷土史・地方史研究者、市町村教育委員会、博物館、大学等と協力した調査研究を実施します。	○館設定研究テーマの調査・研究 ・高遠藩研究会 高遠等での資料調査時に随時実施 参加者：伊那市・宮田村の研究者、教育委員会 内容及び到達目標：R4冬季展「高遠展」に向けて、資料調査を共有するための意見交換	・伊那市立高遠町歴史博物館学芸員、伊那市教委学芸員、上伊那教育会専門幹事、宮田村教委文化財担当、伊那市立高遠町図書館司書等、協力機関の職員や関係者とともに研究会を定期的に実施した。図録への寄稿、信濃毎日新聞コラム寄稿等の成果を残した。冬季企画展の終了をもって研究会の活動も終了となった。	a	B		○安曇野研究会の立ち上げ R7夏季企画展（安曇野に関する展示）に向けて、安曇野に関する研究者の研究の成果を交流する。	
		○長野県行政文書研究会 長野県宝に指定されている当館所蔵特定歴史公文書の基礎的研究を行う。 参加者：大学研究者 到達目標：年3回以上開催し、情報交換を実施	・行政文書研究会を3回実施した（うち1回はWEB）。当館収蔵特定歴史公文書の来歴について議論を深めた。	b		・基礎研究を引き続き外部有識者とともに進めていく	○館設定研究テーマの調査・研究 ・長野県行政文書研究会 長野県宝に指定されている当館所蔵特定歴史公文書の基礎的研究を行う（大学研究者の参加を得て年3回以上開催し、情報交換を行う）	・科研費をとって研究を進めていきたい（研究会メンバー） ・特定歴史公文書のうち長野県宝指定分の重要文化財への指定を目指して進めていきたい（研究会メンバー）
		○長野県青年運動史研究会 当館所蔵「県連合青年団史料」を読解し、戦後の青年団運動等を系統的に研究することで、戦後地域民衆史の構築を図る。 参加者：信州大学・長野大学等県内大学教員、図書館職員、アーキビスト等 到達目標：年3回以上開催し、史料調査も当館で実施	・開館以来の未整理資料「県連合青年団」について、追加寄贈分の目録を作成した（令和5年度前期に公開予定）。	b		・県史編纂事業の進展にあわせて現代史資料の整理公開を進める	○長野県青年運動史研究会 当館所蔵「長野県連合青年団関係史料」を読解し、戦後の青年団運動等を系統的に研究することで、戦後地域民衆史の構築を図る（県内大学教員、図書館職員、アーキビスト等の参加を得て年3回以上開催し、史料調査を当館で実施）	・当館所蔵連合青年団資料が順次整理公開されて有意義である（研究会メンバー） ・さらに活用できるように整理公開を進めてほしい（研究会メンバー）
資料の 調査・ 収集	○長野県によって推進された戦前までを範囲とする「長野県史」を受け継いで、その後の長野県の歩みを明らかにする「長野県現代史」をはじめとする県史編纂のための史資料収集をします	○近現代資料の調査・収集（長野県史） ・聞き取り調査の実施（3回）	・県史編さんへの提言、および県政史・（旧）県史編さん時の証言等、3件の調査を行なった	b	B		○近現代資料の調査・収集 ・聞き取り調査計画的実施（3回）	

[取組2-2] 県民の生涯学習を支援します

	基本目標に対する取組	令和4年度 主な事業・取組 / 目標値	令和4年度 達成値	自己評価	R4反省、R5改善点・取組方針等	令和5年度 主な事業・取組 / 目標値	利用者の声
展示解説の実施	○常設展示、企画展示など、展示を企画した学芸員が、展示のねらいや内容についてわかりやすく解説します。	○常設展示室たより「資料が語る」の作成 ・展示替え、新展示に合わせて、見直し、作成	・展示替え、新展示に合わせて「資料が語る」（12本）を作成	b	B	○常設展示室たより「資料が語る」の作成 ・展示替え、新展示に合わせて、随時作成	
		○展示解説・ギャラリートークの実施 ・解説希望の学校・団体 100%実施（新型コロナ対策として密を避けるため解説付きのみ受け入れる。） ・各企画展における展示解説・ギャラリートーク実施 ※新型コロナ対応のため、すべての講座で参加人数制限、事前申込制を継続	・新型コロナ対応において十分なリスク管理を行った上で、学校・団体解説を実施（193校）実施率100%	b		○展示解説・ギャラリートークの実施 ・解説希望の学校・団体 満足度80%以上 ※新型コロナ対応のため、すべての講座で参加人数制限、事前申込制を継続 ・企画展講演会 開催3回 延べ240人 満足度80%以上	
講演会・講座等の開催	○企画展講演会及び講座（県立歴史館講座、考古学講座、古文書講座）を開催します。	○信州学講座の開催 ・開催9回 満足度80%以上	・9回開催 受講者数504人 満足度 89%（各回・会場とも新型コロナ対応のため人数制限）	b	B	○県立歴史館講座の開催 ・開催4回 満足度80%以上 （県立歴史館で行う講座はR6年度までにすべて県立歴史館講座に改称）	・出土状況の写真と展示物の両方が見られるのがよかった。3D写真の今後に期待したい。（講座：「幻の長沼城を掘る」） ・奈良から離れた信濃にどの程度、大和政権が仏教を道具にして支配しようとしていたのか、話が聞けて良かった。（講座：「古代信濃と仏教信仰」） ・城跡、城下町を発掘出土品である陶器、陶磁器の産地から推定していく手法を詳しく知ることができて良かった。（講座：「近世信濃の城と城下町」）
		○考古学講座の開催、探訪会の実施 ・開催5回、特設講座開催3回、満足度80%以上	・考古学講座：テーマ『長野県の考古学～遺跡を探る～』5回、特設3回「長野県の考古学～遺物に触れる～」受講者計313人 満足度97% ・探訪会はオンライン配信	b		○考古学講座の開催、探訪会の実施 ・講座開催5回 特設講座開催3回 満足度80%以上 （考古学講座はR6年度から県立歴史館講座に統合）	・地元の考古学を初めてまなばせてもらった。遺跡のある地元に住んでいるため興味がわいた。（受講者） ・詳細なレジュメがほしい。
		○古文書講座の開催 ・開催25回 受講者600人満足度80%以上	・25回開催 受講者延べ641人 満足度95%	a		○古文書講座の開催 ・開催25回 延べ受講者600人 満足度80%以上 ・動画コンテンツの拡充	・資料が初心者にもとてもわかりやすく、見やすいもの（字の大きさなど）でよかった。辞書の使い方を教えてもらい、古文書を自分でも調べられるようになり、自分でも勉強しやすくなった。 ・難しい内容でも、講師の説明が大変わかりやすかった。扱っている内容が面白い。原文と釈文との対比がよくわかった。 ・古文書初心者向けの動画を次々にアップしてもらって勉強になった（受講生） ・まったくの初心者に向けた講座をお願いしたい。
		○ティーンズ古文書講座の開催 ・開催4回 受講者5人 満足度80%以上	・4回開催 受講者延べ44人 満足度99%	a		○ティーンズ古文書講座の開催 ・開催2回 受講者5人 満足度80%以上	・崩し字について知ることができ、ひらがなに愛着がわいたり、昔の人を身近に感じることができた（受講生） ・4回連続だと参加が困難（保護者）
		○古文書フォローアップ講座の開催 ・開催2回 各回40名 満足度 80%以上	・2回開催 受講者93人 満足度96.1%	a		○古文書フォローアップ講座の開催 ・開催2回 延べ100人 満足度80%以上	・今までの復習ができ、学習のポイントを示していただき、分かりやすく楽しい内容だった。新しい文書に触れると当時の人々の息吹が感じられて面白い。 ・古文書を読むだけでなく、その前後や裏をみていくことの大切さを学べた。難しい話だったが興味が出てきた。諏訪と武田氏について見方を教えていただいた。
各種出版物の発行	○ブックレット、研究紀要、史料目録、企画展・常設展図録、館たよりなどを発行します。	○計画に従い各種出版物の発行 ・ブックレット：「学芸員が語る 長野県立歴史館所蔵品選」第3巻の発行、館蔵資料の一品を学芸員が選定し執筆する。ジャンル別に4巻構成 年1回発行	・ブックレット信濃の風土と歴史27「学芸員が語る 長野県立歴史館の所蔵品選」第3巻 - 古文書 - を発行	b	B	○計画に従い各種出版物の発行 ・ブックレット：「学芸員が語る 長野県立歴史館所蔵品選」第4巻の発行（館蔵資料の一品を学芸員が選定し執筆。ジャンル別に4巻構成 年1回発行） ・今後の発行について内容を検討する	
		・研究紀要：1冊発行	・研究紀要第29号発行	b		・研究紀要：1冊発行 ・今後Web版として発行することも研究する。	
		・企画展図録：夏季・秋季・冬季企画展における図録発行	・夏季、秋季、冬季企画展にそれぞれにおいて図録を発行	b		・企画展図録：夏季・秋季・冬季企画展における図録発行	・すばらしい展示でした。図録も大変よい。 ・図録買って帰ります。来てよかった。
		・館だより、催しもの案内：館だより年4回、催しもの案内年1回発行	・館だより年4回、催し物案内年1回発行	b		・館だより、催しもの案内（館だより年4回、催しもの案内年1回発行）	
習体 施の験 実学	○各種体験学習を開発し実施します。	○体験学習の教材開発と実施 ・新たな体験メニューの開発	・新しいクイズを作成、解答方法も手製しおりの配布等、参加者との対面での接触を減らす工夫をして実施		B	○体験学習の教材開発と実施 ・新たな体験メニューの開発「じっくり常設展」「歴史館資料体験」「企画展」「バックヤードのDVD・保存処理」	・景色が良かった。

[取組2-3] 学校教育を支援します

	基本目標に対する取組	令和4年度 主な事業・取組 / 目標値	令和4年度 達成値	自己評価		R4反省、R5改善点・取組方針等	令和5年度 主な事業・取組 / 目標値	利用者の声
学校教育への協力・連携	○小中高校の総合的学習や社会科授業、大学の教養科目等の一環として歴史館を積極的に活用してもらえるようにします。 ○博物館実習をはじめとする大学教育との連携を図ります。	○学校見学時の施設案内の実施・満足度80%以上	・満足度「大いに満足」が66%、「満足」が34%で100%が満足	a	A	・虫害の影響を考慮して、R4～バックヤード見学を取りやめたが、代わりに信州大学との共同編集による動画を作成した。	○学校見学時の施設案内の実施・満足度80%以上 ・学校見学への対応について、今まで以上に見学者目線に立つて改善工夫を行う。	・家の中は地面が再現されていてとても面白かったです。昔の人の生活や気持ちもわかってきました ・縄文時代から昭和時代まで長野県で何があったかいろいろ知れてよかった ・たくさんの展示品があって面白かった。歴史に詳しくなれました ・歴史が前より好きになりました。バックヤードの木の保存方法が印象に残った。
		○小・中・高・大学等での出前授業 ・依頼に応じて対応	・出前授業の依頼に対応した	a			○小・中・高・大学等での出前授業 ・依頼に応じて対応	
		○博物館実習の受入 ・コロナ対応のため参加人数上限8名まで受入れ	・博物館実習8人 希望者受入率100% 8/18～30日実施（延べ10日間）	b			○博物館実習の受入 ・参加人数上限10名まで受入れ	・地元で博物館実習を行うことができ、改めて長野県の歴史について考えることができた。 ・地元に戻り、貢献したいと思うようになった。
職場体験の受け入れ	○中学、高校、大学での職場体験事業（インターンシップ）の受け入れを行い、生徒に博物館業務を体験してもらい、博物館・文書館等への認識を深める機会を設けます。	○職場体験学習の受入 ・希望者の90%の受入れ	・中、高生職場体験 4校9人100%受入	a	A		○職場体験学習の受入 ・希望者の100%受入れ	・普段いろいろな博物館などに行くのですが、いつも客の立場でしかない展示の裏を知る機会をいただけて嬉しかった。
実教 施 育 ・ 研 協 修 力 の	○県教育委員会等の依頼により、教員対象の研修会を行い、博学連携を深めます。	○教員研修への協力、実施 ・希望者の90%の受入れ	・新型コロナ対応により、相手先と調整しながら可能な範囲で受入 教材研究研修（県総合教育センター）12人参加 ・免許更新講習（信州大学）は制度が廃止されることに伴い実施なし。	b	A		○教員研修（総合教育センター研修）への協力、実施 ・希望者の100%受入れ（最大14名）	・1か月くらい通って研究したいです。学芸員の方にアドバイスいただくなんて本当に貴重でとても嬉しくワクワクしました。すすめていただいた本も全てドンピシャ、とても有意義でした。

[取組2-4] 歴史情報を提供します

	基本目標に対する取組	令和4年度 主な事業・取組 / 目標値	令和4年度 達成値	自己評価		R4反省、R5改善点・取組方針等	令和5年度 主な事業・取組 / 目標値	利用者の声
館史資料の閲覧	○考古資料 文献史料 図書資料等を閲覧できるようにします。	○史資料の閲覧 ・整理が終了した古文書等の公開を進め、公開情報をホームページ、ブログ等に掲載、周知	・整理が終了した古文書等の公開 整理を終えた古文書群は直ちに公開手続を取り、ホームページ上でその都度データ更新を実施 公開件数 20,332点、公開度100% ・古文書公開ブログ 12回更新、新資料の情報を積極的に公開	b	B	・引き続き情報発信に力を入れる	○史資料の閲覧 ・整理が終了した古文書等の公開を進め、公開情報をホームページ、ブログ等に掲載、周知 ブログ公開10回	・古文書ブログを見て取材に来た（マスコミ） ・長年整理されていなかったものが公開されただけでなく、印刷された目録として手にすることができて感動した（寄贈者）
		・整理、収納した考古資料の公開を進める。閲覧依頼については事前調整を行い、閲覧可能資料には100%対応	・考古資料の閲覧18件 100%対応	b			・整理・収納した考古資料の公開を進める。閲覧依頼については事前調整を行い、閲覧可能資料には100%対応	
		・図書資料については、寄贈、購入等の手続き終了次第閲覧可能となるよう登録を進める。年度内受入図書資料の100%登録	・受入図書資料登録 100%	b			・図書資料は、寄贈、購入等の手続き終了次第閲覧可能となるよう登録を進める（年度内受入図書資料の100%登録）	
インフラへの対応	○県民等からの質問に的確に対応し、歴史情報を提供します。	○レファレンスに対する的確な対応 ・レファレンス対応100%実施 ・職員内のレファレンス内容共有	・レファレンス対応100%実施 ・レファレンス内容の共有	b	B		○レファレンスに対する的確な対応 ・レファレンス対応100%実施 ・必要に応じレファレンス内容を共有	
ホームページの充実	○歴史情報提供の有力な手段の一つとして誰もが活用できるように、使いやすさに配慮したホームページを充実させます。	○ホームページによる情報提供 ・アクセス数の増加 前年比100%以上	・アクセス数 95,832件（R394,085件前年度比101.8%）ホームページにおける情報発信回数82回	a	B		○ホームページによる情報提供 ・アクセス数の増加（前年度比100%以上）	・学校の授業でHPを見たときよりも実際に見てすごいなと思った！
		・開、閉館情報や来館者へのお知らせなど、時宜に応じて発信	・ブログ更新回数23回	a			・開、閉館情報や来館者へのお知らせなど、時宜に応じて発信	
		・展示解説動画配信やこども向けなど、Webを利用した企画を計画・実施する。		b			・デジタルアーカイブページについて、利用者の促進を図るよう、表示の改善を随時行う	
歴史情報システムの整備	○館蔵史資料情報をデータベース化し、ホームページ等を通じて的確に情報提供します。	○歴史情報のデータベース化の推進 ・考古資料 デジタル化した発掘調査記録写真のデータベース化に着手する ・文献史料 古文書等の目録をデータベース化し、歴史情報システムに登録する。翻刻した文書を掲載	・考古資料 発掘調査記録写真のデータベース化に着手 ・文献史料 古文書等の目録をデータベース化し、歴史情報システムに7,852点登録	b	B	・データベース化を継続するとともに保管及び情報提供方法の検討を進める。	○歴史情報のデータベース化の推進 ・考古資料 デジタル化した発掘調査記録写真のデータベース化の継続。情報提供方法等の検討	
				b	B		・文献史料 古文書等の目録をデータベース化し、歴史情報システムへ登録、翻刻した文書を掲載	
マスコミ等による歴史情報の発信	○広く歴史情報を県民に伝えるために、マスコミ等により積極的に情報を発信します。	○マスコミによる歴史館情報の発信 ・信濃毎日新聞「しなの歴史再見」への連載	・新聞コラム「しなの歴史再見」（信濃毎日新聞）53回掲載	b	B		○マスコミによる歴史館情報の発信 ・信濃毎日新聞連載「しなの歴史再見」への寄稿	・信濃毎日新聞のコラムやイベント欄を見ての問い合わせや申し込みが何件ある。また、コラムの内容についての問い合わせもあり、関心を持って読んでくださっている方がある程度いらっしゃるがわかる。
		・企画展、講座等の情報発信（新聞、情報誌等への掲載）	・新聞コラム「学芸員のおススメ！！」（読売新聞）8回掲載 ・新聞イベント欄、新聞有料広告、雑誌、情報誌、ラジオ、ケーブルテレビ有線放送等で企画展・講座等の情報発信実施	b			・企画展、講座等の情報発信（新聞、情報誌等への掲載）	
		・長野県ケーブルテレビジョン連盟による主催講座の発信	・長野県ケーブルテレビジョン連盟による主催講座の撮影、放映実施	b			・長野県ケーブルテレビジョン連盟による主催講座の発信	

常設展示室での情報機器提供	○メイン展示、周辺展示を補い、必要な歴史情報を提供できるようにします。	○ICTの新たな活用方法の検討 ・現代の情報機器に即した既構築コンテンツの活用方法を検討する。	・QRコードによる情報提供 ・ウェブアプリを含めた新しいコンテンツの検討を開始	b	B		○ICTの新たな活用方法の検討 ・DXに対応したコンテンツの構築（本年度）	・QRコードで解説が聞けるところが良かった。
---------------	-------------------------------------	--	--	---	---	--	--	------------------------

【基本目標3】 楽しむ場・憩いの場・交流の場としての役割を果たします

[取組3-1] 楽しむことができる場とします

	基本目標に対する取組	令和4年度 主な事業・取組 / 目標値	令和4年度 達成値	自己評価	R4反省、R5改善点・取組方針等	令和5年度 主な事業・取組 / 目標値	利用者の声
子どもが楽しみながら歴史を体感できる空間の提供	○子どもたちが歴史を楽しみながら体感し、遊びを通して学ぶことのできる空間を提供します。 ○親子や家族で語らい世代間のコミュニケーションを促進する場や機会を提供します。	○館リニューアル検討と併せ、こども歴史館（仮）の検討 ・展示構想等検討	・館全体のリニューアルを検討	b	B	○館リニューアルの検討 ・展示構想等検討	・「四世代で映画を見に来させてもらった」と話される方がおられた。
		○親子映画会の開催	・親子映画会は3年ぶりに4回全て開催 264名	b		○親子映画会の開催	・「楽しく見させていただきました。」「子どもがあきずに見ていたので、また来たい。」と話して帰られる方がおられた。（クリスマスリースづくりアンケートから）。
		○体験イベントの開催 ・こどもの日・夏休み・クリスマスリースづくりは継続実施、その他か企業協賛日等イベント実施	・体験イベント5回実施 *5/5「歴史館でこどもの日」 362人（常設展示室）クイズにチャレンジ217人 プラ板マスコットづくり145人） *6/11「Goolightの日関連 プラ板マスコットづくり」50人 *8/11「歴史館で夏休み」 125人（常設展示室）クイズにチャレンジ125人 *11/26「縄文風クリスマスリースを作ろう」22人*1/21「KOAの日関連イベント プラ板マスコットづくり」 75人	b		○体験イベントの開催 ・こどもの日・夏休み・クリスマスリースづくりは継続実施、その他か企業協賛日等イベント実施	・土器のかざりが良かったです。 事前申込で予約しやすいので来年も同じようにしてもらいたいです。 ・また企画があれば参加したいです

[取組3-2] 人が交流でき、憩える場とします

	基本目標に対する取組	令和4年度 主な事業・取組 / 目標値	令和4年度 達成値	自己評価	R4反省、R5改善点・取組方針等	令和5年度 主な事業・取組 / 目標値	利用者の声
来館者、館職員等の交流の実現	○展示を観覧する、講座を受講するなどの受動的なあり方を転換し、来館者同士、あるいは来館者とボランティア・館職員が気軽に交流する場や機会を提供します。	○来館者同士、来館者とボランティア・館職員の交流の場提供 ・体験イベント等における来館者同士、来館者とボランティア、館職員の交流促進	・解説ボランティア 新型コロナ状況に合わせ、声のかけ方や解説方法を工夫して実施 ・体験ボランティア 新型コロナ対応をしながら、イベント時にプラ板づくりなど活動 ・作業ボランティア 従来の古文書等整理、木器保存処理、図書整理のボランティアに合計で84名が登録	b	B	○コロナが終息した際には、来館者同士、来館者とボランティア・館職員の交流の場提供を少しずつ始めていく ・体験イベント等における来館者同士、来館者とボランティア・館職員の交流促進	・ボランティアをするなら地元でやりたいと思って応募しました ・ボランティアさんの姿を見て、私もやってみようかなと思った ・時間が持てるようになったので、前からやってみたかったボランティアに応募させていただいた
憩える場の環境整備	○観覧の合間に休息できる空間や施設、そして自然環境を満喫して憩いの空間となる屋外展示を充実します。	○屋外展示の充実 ・通路の整備、清掃 ・各時代別植栽の手入れ、説明看板の整備	・老木となった屋外展示の樹木の剪定や落下した枯れ枝の除去を、職員により実施。表示の整備・更新を一部完了させた。	b	B	○屋外展示の充実 ・通路の整備、清掃 ・各時代別植栽の手入れ	

[取組3-3] 県民が参加した館の運営を進めます

	基本目標に対する取組	令和4年度 主な事業・取組 / 目標値	令和4年度 達成値	自己評価	R4反省、R5改善点・取組方針等	令和5年度 主な事業・取組 / 目標値	利用者の声
館の自主学習資料を育成した	○県民参加の歴史館運営の一環として、館蔵史資料を使った愛好会活動が行える環境を整えます。	○古文書愛好会の育成と活動支援 ・参加者数 延べ500人	・参加者数 延べ 643人 館蔵文書を読む会8回開催 参加者39人（延べ252人） 古文書探訪会（飯山方面）参加者25人 古文書演習 夏季5回参加者27人（延べ 88人）冬季3回参加者 27人（延べ287人）	a	A	○古文書愛好会の育成と活動支援 ・参加者数 延べ500人	【読む会】 ・特別展もあり、大井法華堂の古文書を読むことができてよかった。貴重な史料を読みあうことができてとても良かった。また、色々説明していただき楽しかった。 【探訪会】 ・大井法華堂文書に関わって小菅神社を選び好評だった。
		・古文書解読文を1冊刊行	*古文書解読文「大井法華堂日記」刊行、HP公開	b		・古文書解読文を1冊刊行	
ボランティアの育成	○展示案内、体験学習、史資料整理・保存などの館活動へ主体的に参加するボランティアを育成し、ともに活動します。	○運営サポートボランティアの育成 ・展示解説、体験、作業ボランティアの募集、育成を行い、館運営への活用を推進	・歴史館HP、チラシ（当館設置）により募集 新規登録者12人	b	B	○運営サポートボランティアの育成 ・展示解説・体験・作業ボランティアの募集・養成を行い、館運営への活用を推進	・日曜解説では「熱心なお2人で、1時間半かけて丁寧に説明したり、話をしたりしてご案内しました。」等、熱心に聞いてくださったとの声が多くノートに記録されていた。
			・解説ボランティア 毎週日曜日と祝日、イベント時に実施し12名参加	b			・「ありがとうございます」と声をかけると、「ライフワークと趣味とも兼ねているので楽しいです」と返事をしてくださる方がいた。
			・体験ボランティア「歴史館で子どもの日」「歴史館で夏休み」企業協賛「Goolightの日」「KOAの日」にプラ板やどきmoドキづくり、クリスマスリースづくりに16名参加	b			・片道2時間近くかけて来られる方も「こういう（保存処理）の好きなんで全然大変じゃないです」と笑顔で話してくださった。
館の運営を反映した利用者の意見	○館の運営に、アンケート等により寄せられた意見を反映させていきます。	○利用者アンケートの活用 ・来館者アンケート意見の反映 ・ホームページ問合せフォームによる意見募集	・常設展、企画展、講演会等について、来館者の記述式のアンケートを実施 ・来館のきっかけとなった情報媒体を調査するため、冬季企画展開催時にシール式のアンケートを実施 ・アンケート用紙の「性別」欄を削除した。また、市町村別の来館者数を把握するため、回答用紙に記入欄を設けた。	b	B	○利用者アンケートの活用 ・来館者アンケート意見の反映させる ・ホームページ問合せフォームによる意見募集	・アンケートを壺に入れるという発想は面白くて好きです。
			・作業ボランティア 427回 （木器処理128回、文献整理218回、図書整理81回）展示解説研修会 4 回開催し17名参加	b			

【基本目標４】 県内全域での活動を推進し、地域に貢献する活動を進めます

[取組4-1] 県内全域の県民の生涯学習、子どもたちの歴史学習を支援します

	基本目標に対する取組	令和４年度 主な事業・取組 ／ 目標値	令和４年度 達成値	自己評価	R4反省、R5改善点・取組方針等	令和５年度 主な事業・取組 ／ 目標値	利用者の声
出前講座等の実施	○歴史館から離れた地域の博物館等へ館職員が伺い、館主催の講座を開催します。 ○県内全域の博物館等からの依頼に応じ、講演会等を行うために職員を派遣します。	○出前講座等の開催 ・「信州学出前講座」として、諏訪市、箕輪町、大桑村と連携し講座を開催 満足度80%以上	・信州学出前講座 3回開講 聴講者数計77人 満足度82.1%（諏訪18人、箕輪27人、大桑32人） 新型コロナ対応で各自治体とも人数を制限して実施。各講座ともに定員を80名で募集した。	a	A	○出前講座等の開催 ・「県立歴史館出前講座」として、箕輪町・大桑村と連携し講座を開催 満足度80%以上	・これから諏訪で神仏融合プロジェクト（10/1～）があるので、非常に勉強になりました。断片的な知識が先生の話聞くことで、つながりが把握でき、良い講座でした。（諏訪会場） ・千曲市は遠方でなかなか訪問できませんが、今後も出前講座を利用させていただいて知識を深められたらうれしいです。（箕輪会場） ・中山道歩きが好きなので、この地にも伊能が測量をしたことを知り、とても興味をもって講座を聞かせていただいた。（大桑会場）
		・上記以外の出前講座 講師派遣依頼要請の90%以上実施	依頼要請に対する実施率100%実施	a		・上記以外の出前講座 講師派遣依頼要請の90%以上実施	
出前授業等の実施	○歴史館から離れた地域の学校・公民館と連携し、館職員が貴重な史資料とともに赴いて授業を行います。 ○県内全域の学校（小・中・高校や大学等）からの依頼に応じて授業を行うために職員を派遣します。	○お出かけ歴史館事業の実施 ・伊那・木曽地域に加え、諏訪地域も対象に追加3回開催	・実施した学校数4校、公民館数3館4講座、実施人数188名。実施計画を立案し、上伊那、下伊那、木曽、諏訪地方の小中学校、公民館に広報活動を行った。	a	A	○お出かけ歴史館事業の実施 ・伊那・木曽地域に加え、諏訪地域も対象に追加 7回開催	・黒曜石は知っていたけれど、各所によって切れ味が違うのはびっくりしました。 ・弓が思ったより飛んで、けっこう的に当たったからうれしかった。 ・土器の模様が今より良いと思った。 ・開田の土器は知らない人がいないと聞いてびっくりしました。 ・時代によって変化する土器とかを触れてよかった。
		○出前授業の実施 ・学校からの出前授業 要請の90%以上実施	・小学校等で出前授業を行った。	b	B	○出前授業の実施 ・学校からの出前授業 要請の90%以上実施	

[取組4-2] 地域活性化につながる情報発信を進めます

	基本目標に対する取組	令和４年度 主な事業・取組 ／ 目標値	令和４年度 達成値	自己評価	R4反省、R5改善点・取組方針等	令和５年度 主な事業・取組 ／ 目標値	利用者の声
な地が域る活情性報化発に信つ	○積極的な情報発信による地域の活性化に寄与します。	○地域の活性化に寄与する積極的な情報発信	・R4企画展として、県内地域に焦点を当てた「諏訪と武田氏」（観覧者5,287人）、「高遠藩の遺産」（観覧者 2,249人）を開催	b	B	○地域の活性化に寄与する積極的な情報発信	・佐久市と共催した修験展は佐久市と連携して現地見学および企画展見学が運動してできた。
		・県内の地域に特化した企画展の調査、研究	・R7開催予定の「安曇野展」につき、調査・研究。	b		・県内地域に所在する文化財等を調査・研究、展示等を活用した情報発信	
		・常設展・企画展における市町村所蔵資料等の借用・展示	・箕輪町、南箕輪村、平谷村等と協力し、地域で展示会を開催した。 総来場者654人	b		・常設展・企画展における県内市町村所蔵資料等の借用・展示	

[取組4-3] 地域課題を捉えた調査研究を推進します

	基本目標に対する取組	令和４年度 主な事業・取組 ／ 目標値	令和４年度 達成値	自己評価	R4反省、R5改善点・取組方針等	令和５年度 主な事業・取組 ／ 目標値	利用者の声
地域・課題研究の課	○県の関係部局、県内外の博物館等と連携して、地域課題・地域文化の調査・研究を行います。	○歴史的水害を伝える史料の活用研究会への調査協力・連携 ・「歴史的水害を伝える史料の活用研究会」（山浦直人当館名誉学芸員が中心となって立ち上げた河川絵図を調査し活用する研究会）との連携・調査協力	・「歴史的水害を伝える史料の活用研究会」との連携を行い、歴史館の常設展示室入口から廊下の掲示スペースを使って、梓川・千曲川の測量図（複製）を展示し、展示解説も行った（12/24～3/9）観覧者884名	b	B	○歴史的水害を伝える史料の活用研究会への調査協力、連携 ・「歴史的水害を伝える史料の活用研究会」（山浦直人当館名誉学芸員が立ち上げた河川絵図を調査し活用する研究会）との連携・調査協力	
		・当館蔵の長野県測量図等のデジタル撮影、研究会開催	・歴史館で歴史的水害を伝える史料の活用研究会が撮影した絵図を使って、研究会を開催する。	b		・学芸員が中心となって立ち上げた河川絵図を調査し活用する研究会）との連携・調査協力	

【基本目標5】 県内博物館・文書館の中核、歴史情報の拠点としての役割を充実させます

[取組5-1] 県内外諸機関との連携を進めます

基本目標に対する取組		令和４年度 主な事業・取組 ／ 目標値	令和４年度 達成値	自己評価		R4反省、R5改善点・取組方針等	令和５年度 主な事業・取組 ／ 目標値	利用者の声
県内外の博物館等と	○県内博物館・文書館等の中核として県内外の博物館等との連携を進め、史資料の収集・整理・保存及び調査・研究、情報共有等の活動を充実させます。	○県内外博物館等との連携 ・R5開催予定の古墳展に向け、群馬県立歴史博物館・山梨県考古博物館との連携推進	・長野県博物館等関係職員研修会を開催し、土器の梱包、 屏風・軸・卷子等の梱包の研修。参加人数53名参加。	b	B		○県内外博物館等との連携 ・R6開催予定の川中島の戦い展に向け群馬県立歴史博物館、山梨県考古博物館、新潟県立歴史博物館との連携推進	
		○長野県博物館協議会、長野県史料保存活用協議会の運営 ・県博協HP運用、加盟館のイベントを発信 ・県史料協メールマガジンによる情報発信、県外流出文書の情報共有	・県博物館協議会HPを運営し、情報発信を行った。 ・県史料協メールマガジンを8回発行した。	b		○長野県博物館協議会、長野県史料保存活用協議会の運営 ・県博協HP運用、加盟館のイベントを発信 ・県史料協メールマガジンによる情報発信（8回以上）、県外流出文書の情報共有	・メールマガジンを通じて、流出文書の情報を共有できた。	
県内外の諸機関等との連携	○県の関係部局はもちろんのこと、県内外の関係諸機関と連携して活動します。	・近世史セミナー（信濃史学会、信州近世史セミナー共催）1回 ・考古学セミナー（長野県考古学会との共催）2回	・近世史セミナー：12/3開催 受講者72人 ・考古学セミナー：2回開催 ①1/14遺跡報告会：受講者51人、満足度94％ ②2/19映画「掘る女」：受講者65人、満足度100％	b	B	・考古学セミナーについては共催する長野県考古学会等と発表時間等について事前打合せで課題を共有する。	・近世史セミナー（信濃史学会 信州近世史セミナー共催）1回 ・考古学セミナー（長野県考古学会との共催）２回程度	考古学セミナー① ・最新の調査成果がよくわかった。どの遺跡も興味深かった。 ・発表の時間をもう少し多く取ってほしい。 考古学セミナー② ・映画を取り入れたセミナーはよいと思う。上映後の座談会もよかった。 ・質問の時間をとってほしい。 ・パワーポイントが見にくい場合がある。 ・新聞を見て無料公開日と知り企画展も常設展もゆっくりと見させてもらいました。 ・無料公開されてありがたかった。
		・歴史館企業協賛の日 年2回開催	・「Goolightの日」：6/11開催（無料公開）入館者243人バックヤード案内60人参加 ・「KOAの日」：1/21開催（無料公開）入館者331人バックヤード案内39人参加	b			・歴史館企業協賛の日 年2回開催	
		・その他	・須坂市と自治体2例目となる連携協定を締結。その一環として「須坂市民の日」（11/21）を設定し、須坂関係史料の特別公開、市民向けの施設案内などを実施 須坂市民108人来館 ・建設部砂防課の作成した県内各地の災害にまつわる事柄を記載した「災害伝承カード」の監修を行った。	b		・須坂市との連携協定の一環として「須坂市民の日」（11/19）を設定し、須坂関係史料の特別公開、市民向けの施設案内などを実施する。		
県内外の歴史収集	歴史情報(県内市町村資料情報、県内外歴史雑誌等情報)を収集し集約します。	○歴史情報の積極的な収集、集約 ・資料調査員からの県内市町村資料情報の収集	・資料調査員から情報収集 HPで公開 県内市町村史資料情報38件、出版情報17件、歴史情報57件	b	B		○歴史情報の積極的な収集、集約 ・資料調査員からの県内市町村資料情報の収集100件	
		・県内外歴史雑誌等の収集及び掲載内容の閲覧システムへの登録	・県内外歴史関係雑誌804冊収集、掲載内容を閲覧システムへ登録	b			・県内外歴史雑誌等の収集及び掲載内容の閲覧システムへの90％以上登録	

[取組5-2] 県内歴史情報のデータベース化・デジタルアーカイブを推進します

基本目標に対する取組		令和4年度 主な事業・取組 ／ 目標値		令和4年度 達成値		自己評価		R4反省、R5改善点・取組方針等	令和5年度 主な事業・取組 ／ 目標値		利用者の声	
県内歴史資料のデータベース化	○集約した県内の歴史情報をデータベース化し、関係機関と共有します。	○集約した県内歴史情報のデータベース化、共有化 ・資料調査員からの市町村資料情報をデータベース化	・資料調査員から収集した県内市町村史資料情報・歴史情報110件をデータベース化し、活用できるよう当館HPに掲載、公開 ・県内出土土偶のデータベース化が終了、当館HPで公開 掲載資料4,320点	a	A				○集約した県内歴史情報のデータベース化、共有化・資料調査員からの市町村資料情報をデータベース化			
	○データベース化した県内の歴史情報のデジタル化を進め、デジタル・アーカイブにまとめます。	○データベース化した歴史情報のデジタル・アーカイブ作成 ・館内史資料のデジタル化を進め、デジタル・アーカイブとしてまとめる。	・考古資料：発掘調査関係写真のデジタル化 35mm：1,300枚、中版6×7：2,065枚 ・文献史料：収集古文書のマイクロフィルム化2,850件	b	B			・考古資料のデータベース化・デジタルアーカイブの推進	○データベース化した歴史情報のデジタル・アーカイブ作成 ・館内史資料のデジタル化を進め、デジタル・アーカイブとしてまとめる			
インターネットの提供・活用	○データベース化、デジタル化した県内の歴史情報をインターネットを活用して提供します。	○ホームページなどによるデータベース・デジタルアーカイブの提供			B				○ホームページなどによるデータベース・デジタルアーカイブの提供			
		・デジタルアーカイブのホームページ新規追加	・新規追加デジタルアーカイブ「長野県内出土土偶」運用開始	b			・デジタルアーカイブページの表示改善					
		・ホームページ内デジタルアーカイブ利用数の増加 前年比100%以上	・デジタルアーカイブページアクセス数 9,395件（R3 18,451件前年度比50.9%） ※デジタルアーカイブ利用者数については、各ページ（ライブラリー・スペシャルコンテンツ）のアクセス数をカウントしているのみで、利用者の実数とは限らない。 ・デジタルアーカイブの新規追加 県内土偶データベース化終了、公開 4,320件	c			・ホームページ内デジタルアーカイブ利用数の増加（前年比100%以上）					

【基本目標 6】 来館者及び職員の安全・安心を第一とした館運営を行います

基本目標に対する取組	令和4年度 主な事業・取組 ／ 目標値	令和4年度 達成値	自己評価		R4反省、R5改善点・取組方針等	令和5年度 主な事業・取組 ／ 目標値	利用者の声
社会情勢に応じ、来館者及び職員の安全・安心の確保に努めます。	○適切な感染防止策の徹底 ・県の感染警戒レベルに応じた館の対策基準を設定（例 レベル5では閲覧室閉鎖・閲覧業務停止など） ・検温、手指消毒、健康状態の把握、マスク着用、入場制限、距離の確保、事前申込、定期的な消毒・換気など ・最新の情報収集、状況変化に応じた対応策の検討、事態発生時の対応など、安全管理のマネジメントを適切に行う。	・県の感染警戒レベルに随時対応した細やかな感染防止対策の実施	a	A	・R5.5.8の新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付け変更（5類感染症に変更）後も適切に対応する必要がある。	○適切な感染防止策の継続 ・5類感染症に変更後も引き続き、基本的感染対策（手指衛生、検温、展示室等でのマスク着用等）の呼びかけ、座席数制限（ただし基準緩和）等を実施 ・最新の情報収集、状況変化に応じた対応策の検討など、安全管理のマネジメントを適切に行う。	

【基本目標 7】 館の将来を見据え、魅力度向上を図るための新たな取組を推進します

基本目標に対する取組	令和4年度 主な事業・取組 ／ 目標値	令和4年度 達成値	自己評価		R4反省、R5改善点・取組方針等	令和5年度 主な事業・取組 ／ 目標値	利用者の声
県立歴史館のリニューアルに向けた検討を進めます。	○県立歴史館リニューアルに向けた館内検討の実施 ・R6年度に開館30周年を迎えるに当たり、施設・設備の長寿命化、展示リニューアルについて課題の整理及び意見のとりまとめを行う。	・全職員（グループ分け）による意見交換会を3回実施 館の基本理念、施設設備及び展示の改善をテーマとして意見交換を実施	a	A	・館職員による意見交換の結果をもとに、さらに現状把握及び改善策の検討を具体化する必要がある。	○県立歴史館リニューアルの方策案の検討・とりまとめ ・施設・設備の長寿命化の実施に向け、具体的な施設の現状把握及び対応策検討を進める。（R8県ファシリティマネジメント基本計画見直しを目的に、その個別計画への掲載を目指す。） ・常設展示の現状と課題、リニューアルの考え方・イメージの集約を行う。 ・文化財・生涯学習課と課題の共有を図る。	
博物館機能強化のための独自の対応を実践します。	○博物館機能向上と魅力度アップに向け、学芸員有資格者の専門性発揮による業務推進体制（シンクタンク機能）の構築を検討	・館独自組織「博物館機能向上学芸員チーム」の創設を決定	a	A	・R5活動開始以降、実効ある取組にしていきたい。	○博物館機能向上の取組の充実 学芸員チームを効果的に活用し、館の課題の検討・解決に取り組み、魅力ある博物館の構築に努める	
県民歴史館の事業をご活用いただく取組を推進します	○館のアウトリーチ活動及び地域貢献の一環として、館の取組を情報提供・発信し、県民や市町村等を支援する取組を積極的に推進する。	・館で提供可能な支援メニュー（講演・講座、古文書受入れ、資料化学分析、地域展示）について新たに案内チラシを作成・周知	a	A	・ホームページや各種会議を活用し、支援メニューに関する情報提供を積極的に行う。	○館のアウトリーチ活動の一環として、館の取組を情報提供・発信し、県民や市町村等を支援する取組を積極的に推進する。	

